

12 猪野 由里 さん Yuri Ino

起

北勢

特定非営利活動法人 みどりの家（四日市市）
理事長

事業所

住所：三重県四日市市日永四丁目二番4 1号

URL：http://www.npo-midorinoie.org

社員数：18名

業種

障がいなどを持つ人の
就労・生活支援、職業
訓練、雇用・余暇活動
支援



Profile

- ・音楽家を目指しアメリカへ留学
- ・ボランティアとエコロジーに傾倒
- ・帰郷し環境プランナーとして起業
- ・「誰もが働きやすい仕事」を創出

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO 設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他

講演実績

- ・2006年「環境福祉事業の展望 - リサイクルの新展開」（一般財団法人保健福祉広報協会）
- ・2008年「障がい者の自立活動支援」（NPO 法人市民ネットワークすずかのぶどう主催）
- ・2008年「障害者の自立を成功させたリサイクルとは」（株式会社岩井化成）

「私の使命」

ごみ削減・就労支援・増客が実現！

音楽の才能が認められ、高校は東京で、大学はアメリカで学生生活を送った猪野さん。「アメリカでは障がいを持つ人が臆せず外出し、人生を謳歌している姿に感動しました。それを支えるボランティアがとても活発なことに。その影響を受け、卒業後は地元四日市市でエコとボランティアをミッションに起業。

約20年経ったいま、猪野さんは自身が築いた『ハイブリッド型地域サービス』の良さを説き、普及を広く呼びかけます。それは、障がい者・一般生活者・地域の企業・行政のみんなに“イイこと”がある仕組み。企業には増客が、行政にはごみ減量をもたらされているとか。鈴鹿市と四日市市で実際に稼働中の仕組みについて聞きました。

ごみ・不要品回収で商業施設の集客力UP！

1997年に環境プランナーとして起業し、企業のCSR活動をコーディネート。「それと並行して、障がいを持つ人と一緒にエコステーション（廃品回収・フリーマーケット）の運営もしていました」。このエコステーションが、商業施設の集客装置になり得ると確信した猪野さんは、各企業に提案。はじめに『鈴鹿ハンターショッピングセンター』が、続いて『日永カヨーショッピングセンター』が導入しました。両ショッピングセンターでは障がい者への理解が進み、採用も開始。

さらに猪野さんは2006年に、回収した食品トレーをペレットに再生する工場も創業。これには「事業ごみが削減できて助かる」と『スーパーサンシ』が敷地を提供しています。

私流リーダーシップ

誰でも働きやすいカタチに“仕事をデザイン”

商業施設のエコステーションを成功させた猪野さんは、2000年に障がい者の就労を支援する『みどりの家』を開業。エコステーションと食品トレーの再生工場を、就労困難者の職業訓練所にしました。また商業施設に対し、ショッピングカート回収や店内清掃などの仕事について、『みどりの家』出身者の雇用受け入れを提案。

さらに2012年には、食肉加工のプロ・堀内強美氏を招き、『みえ豚ジャーキー』を開発。その加工所も作業所として開業しました。「寄付の呼びかけや陳情など、支援を求める方法は色々あると思います。私は双方にとってwin-winの仕組みを考え提案をする方が、大きな成果を上げられると思います、実践しています」。

市民には“ボランティアに参加した喜び”を

猪野さんの『ハイブリッド型地域サービス』は、一般市民にも“イイこと”があります。それは“不要品をごみにせず済んだ”という充足感。“善い行いをした”というボランティアの喜びをもたらします。猪野さんがこれらの取組を始めて20年。この20年で世相は変わり、『みどりの家』利用者の悩みにも変化があるといいます。

「近年は長期の引きこもりや鬱病などで就労困難な人が増えました。思うように働けない個々の事情を汲み、長い目で支援します。「無事に就職できた人が、誇りに満ちた顔で報告に来てくれるのを見るのが私の喜び」。“三方良し”以上の成果をもたらすこの取組が、日本中に広がることを猪野さんは願います。

（取材時：2018年8月）

こんな講演・相談に対応できます

- 障がい者就労支援に係る起業体験
- 障がい者福祉と環境ビジネス
- 企業CSRとリサイクルビジネス
- 障がい者の自立活動支援の実態

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
ここから

